

「2012年度研究助成」研究結果（概要）報告

一般社団法人日本内部監査協会

研究助成は、一般社団法人日本内部監査協会が、内部監査あるいは内部統制に関する調査研究を奨励し、もって内部監査及び関連する諸分野の理論及び実務の研究を推進することを目的として運営するものです。

2012年度に助成金給付対象となった下記1件について、研究結果の概要を対象者からご報告いただきました。

「2012年度研究助成」助成金給付対象案件（敬称略）

申請者（所属先・職位：2012年9月現在）	研究課題
藤原 英賢（追手門学院大学経営学部 講師）	海外子会社の内部統制が財務報告の質に与える影響

研究課題：海外子会社の内部統制が財務報告の質に与える影響

追手門学院大学経営学部 准教授

藤原 英賢

キーワード：内部統制報告制度・財務報告の質・子会社の内部統制

本研究は、我が国企業の内部統制が有効に機能しているのかを確かめるため、内部統制報告制度によって開示される内部統制の状況に関する情報と海外子会社の状況、財務報告の関係を明らかにする。まず海外子会社の有無が内部統制の整備状況にどのような影響を与えているのかを検証し、その結果を踏まえ、海外子会社の状況を考慮した内部統制の問題についての判断形成と財務報告の質との関係を検証する。

調査の結果については下記の通りである。海外子会社の内部統制の問題を開示し、対応している会社とそれ以外の内部統制の問題を開示している会社の財務報告の質には大きな差を識別することはできなかった。これは海外での事業展開を行っている会社はその子会社の問題に迅速に対応し、是正している結果であると解釈できる。国際的なM&Aの実施等により我が国企業の事業活動が国際化する中で大規模な会社ほ

ど内部統制の問題が抑制されているとする先行諸研究の結果と整合するものとも理解できる。

この研究を一般化し以下の検証を行った。まず内部統制の問題を開示した会社の中で、是正できた会社と是正できなかった会社で性質が異なるのかどうかを検証した。特に継続企業の前提に関する追記情報の開示を利用した検証の結果、財務状況が極めて悪化し、内部統制の問題を開示する必要があった会社は中小規模監査法人の監査を受けていることがわかった。次に、開示された内部統制の問題は財務報告にどのように影響しているのかを検証した。財務報告への影響は、期待外アクルーアルズを利用した。期待外アクルーアルズの向きを利用した結果は、内部統制の問題による影響を識別することはできなかった。

期待外アクルーアルズの大きさに着目した検証では、会社の規模や監査法人の規模、内部統制の問題の深刻度が財務報告に影響していることを示した。

内部統制の問題開示会社の特徴についてコーポレート・ガバナンスとの関係を検証した成果が多数報告される中、内部監査との関係を検証した報告はわずかである。有価証券報告書等で開示されている情報に限界はあるけれどもこの点を今後の課題としたい。